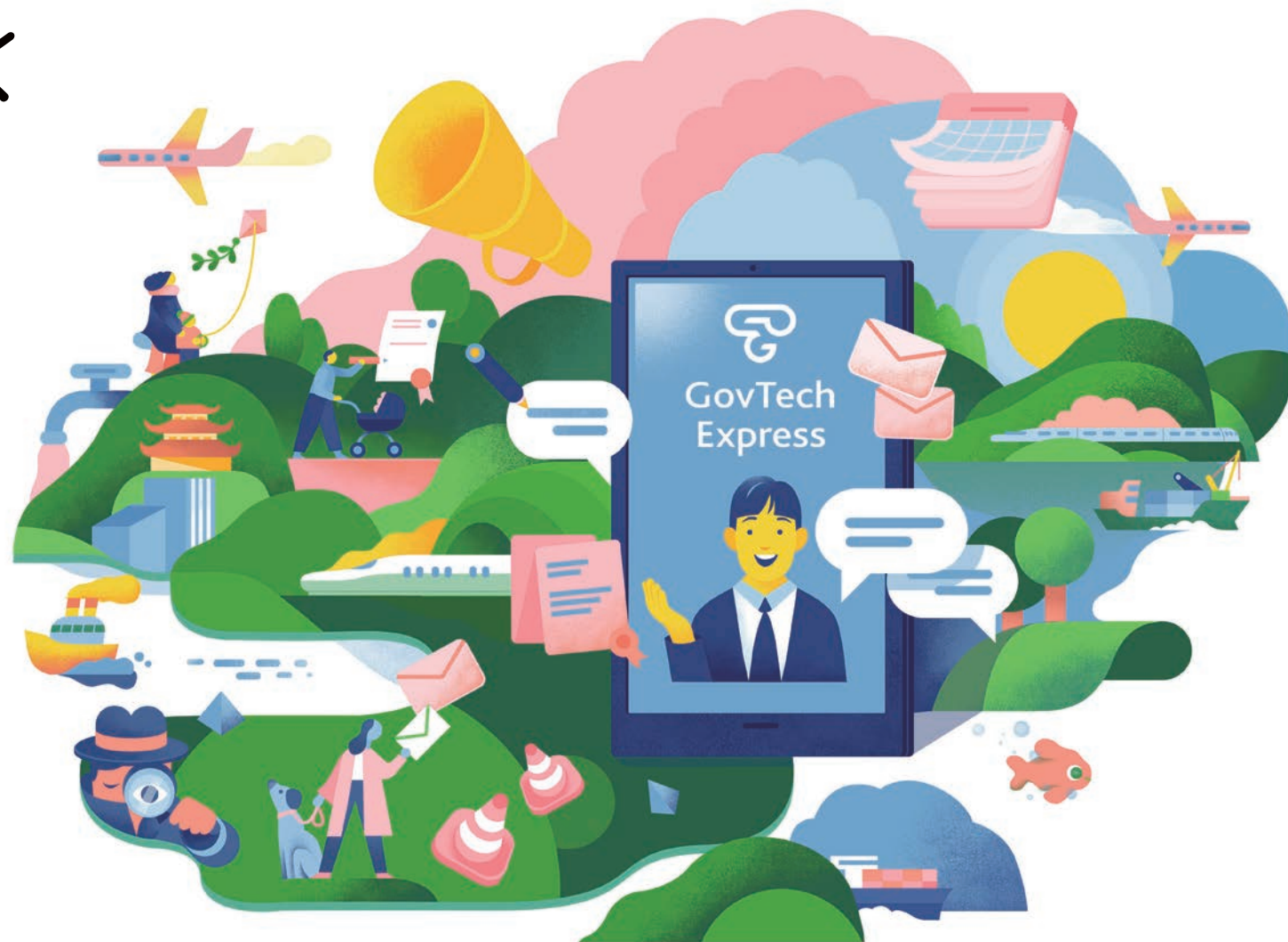


スマホ市役所

事例BOOK













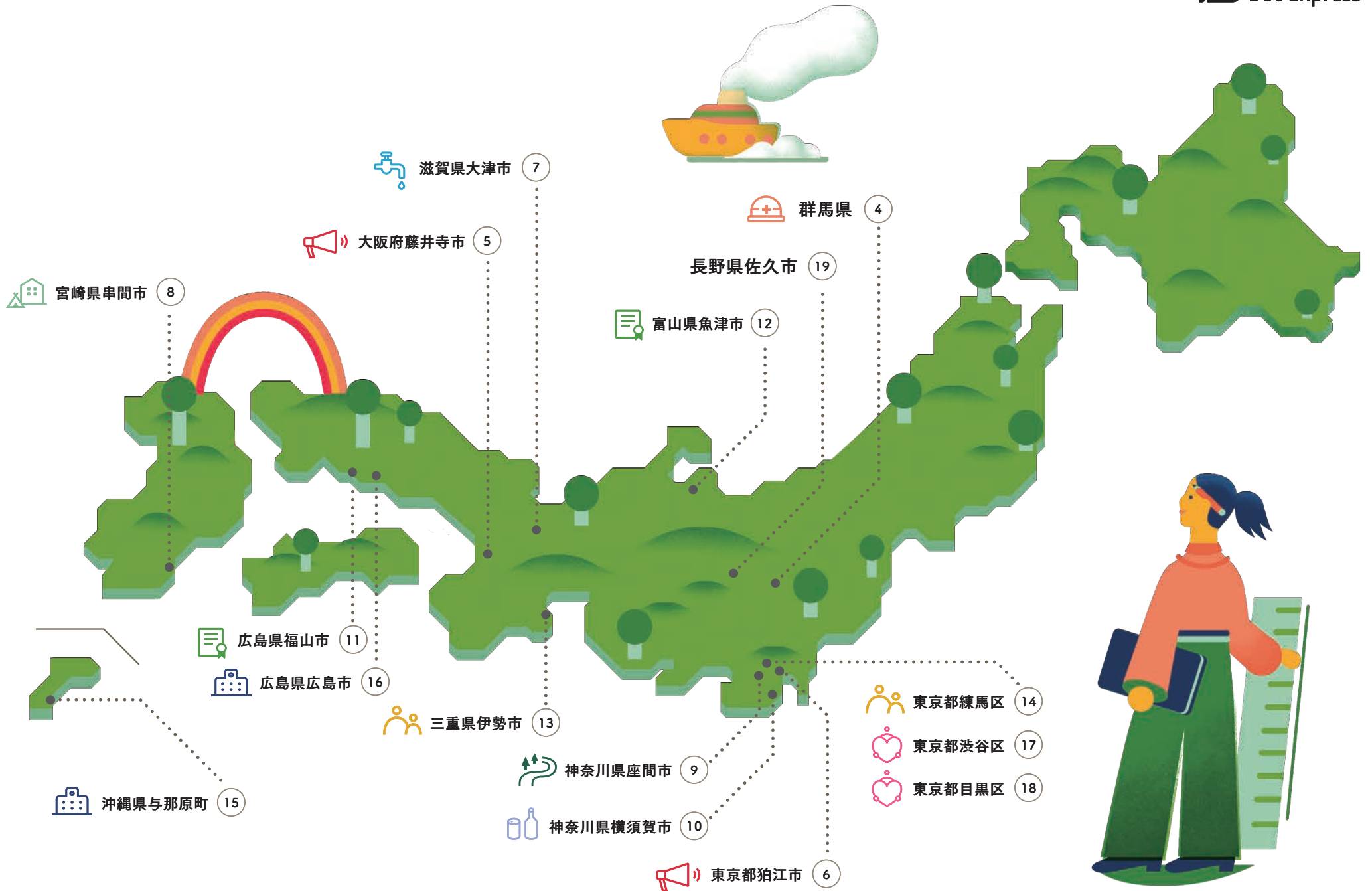
スマホ市役所

事例BOOK



Contents

スマホ市役所MAP	2
【事例】	
 防災・危機管理	4
 広報・広聴	5—6
 ガス・水道	7
 公共施設	8
 道路・環境	9
 ごみ	10
 戸籍・住民票・マイナンバー	11—12
 子育て	13—14
 学校・教育	15—16
 健康・福祉	17—18
【Special Contents】	
自治体の中の“開発現場”インタビュー	19
スマホ市役所ギャラリー（リッチメニュー編・フレックスメッセージ編）...	20—21
Bot Expressについて	22





スマホ市役所

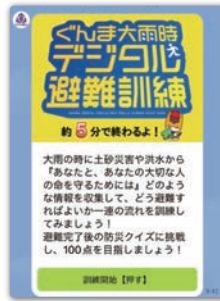
事例



5分で完了。スマホで避難訓練

1 取り組み概要

- ▶ 群馬県LINE公式アカウントを活用し、スマートフォン上で完結する「ぐんま大雨時デジタル避難訓練」を実施。
- ▶ 防災メニューより訓練開始をタップ、約5分で完了。訓練完了時には「訓練完了証」を表示。
- ▶ 土砂災害防止月間の6月1日には全登録者に対し訓練についてメッセージ配信。
- ▶ 都道府県が運営する公式LINEアカウントを用いた避難訓練の実施は、全国初の取り組み。



2 特徴

- ▶ 好きな場所で好きな時に訓練が可能。
- ▶ ハザードマップ、避難先、避難のタイミング、防災情報や避難情報等の、大雨の時に命を守るために必要な一連の情報をスマートフォン上で確認可能。
- ▶ 選択した市町村に連動して、身近な地域の情報がフォーカスされて表示されるので、情報の確認が簡単。



結果

- 県内全35市町村で利用
- 訓練参加回数8万回以上 (6/1~6/30の土砂災害防止月間中の利用)

住民の声

- 「自宅や地域の危険性が確認できた」99% 「防災の意識が高まった」93%
- 「自分の住む地域が危険区域に含まれると知り、驚きと共に知ってよかったという気持ちになった」という肯定的な意見がある一方で、「ハザードマップが見づらいので改善して欲しい」という新たな要望も。住民が興味を持ってくれたことも良い変化のひとつ。

3 工夫

- ▶ 県公式LINEアカウントを活用。新たなアプリ導入は費用も普及するまでの時間もかかる。LINEという身近なツールを利用することで、住民が参加しやすくなる。群馬県ではコロナワクチン接種予約をLINEで行っていたので、県の手続きとしても身近なものになっており、防災に活用しトーク形式であればゲーム感覚で利用しやすいのではないかと考えた。
- ▶ 国や県の配信している情報など、今ある素材をどうやって組み合わせたら利用者が見やすくなるか、使いやすいかを考え、周りの意見を集めながらBot Express担当者と協力し、担当職員自らシステムを構築。
- ▶ 最後に防災クイズを用意し、完了証を表示させるなど、楽しんで参加してもらえる要素も設定。



4 苦勞と解決策

- ▶ コロナ禍により地域で人を集めての避難訓練が困難、かつ各市町村の総務部門がコロナウイルス関連の対応に追われ、行政主導での避難訓練を行うことが難しい状況。ただ、災害はそういった状況下に関係なく襲ってくる。訓練実施できないことでの防災意識の低下が懸念。
- ▶ 県内市町村の協力によりSNS等で拡散できたことが利用者増につながった。

担当者

群馬県
県土整備部砂防課 砂防情報係

和田 健太郎

コロナ禍であっても襲ってくる自然災害に、いつ・どこで・どんな情報を入力し行動すれば大切な命を守れるのか。LINEを活用して短時間で身近な情報を入力しつつ、備えるべき一連の行動を段階的に確認できるコンテンツを目指しました。定期的に使って、有事の際に落ち着いた避難行動が取れるようにしてもらいたいです。





フレックスメッセージで実現。 住民に語りかける情報発信

自治体 | 大阪府藤井寺市

アカウント名 | 藤井寺市
LINE ID | @fujideracity



1 取り組み概要

- ▶ 藤井寺市のLINE公式アカウントから、フレックスメッセージで市政情報やイベント情報、コロナ関連情報などを登録者に一斉配信。
- ▶ 特に注目してほしいニュースは画像付きで紹介するなど、視覚的に分かりやすく住民へ情報を届けている。
- ▶ 2022年8月にはLINE上で完結する避難訓練機能をリリースするなど、多方面でLINEを活用中



結果

- 以前は1通の配信につき最大9枚のカーセルのカードタイプメッセージを配信していたが、1枚目と9枚目では、インプレッション数に10倍ほどの開きがあった。
- メッセージの全体を把握しやすく、文字数を絞った現在の形に変更したことにより、どのトピックにも目を通してもらえるようになった。

2 特徴

- ▶ 住民がメッセージを受け取った際に、一目でどんな内容なのか分かるように工夫。
- ▶ これまで一律の画像サイズ、文字だったが、フレックスメッセージを用いることで、1通のメッセージだけでその週の最新情報やしっかりと読んでほしい情報がすぐに分かるようになった。

3 工夫

- ▶ 毎週1回決まった曜日に配信を行うことで、必要以上の配信を避け、住民に受け入れられる情報発信に。
- ▶ 配信するメッセージは、画像やテキストのサイズを調整するなど読みやすさを重視。
- ▶ 配信メッセージだけでなくリッチメニューも住民ニーズが高いもの順に並べ、わかりやすいアイコンにするなど、ビジュアルにもこだわっている。

4 苦勞と解決策

- ▶ タイトルのキャッチーさ、住民に語りかけるような口調を意識することで、伝わる情報配信を。
- ▶ メッセージ配信時のタイトル文字数が限られているが、各課が設定しやすいようにテンプレートを用意。文章量、伝わりやすさなどに改善が必要な情報が原課から届いた際、秘書広報課にて文言を調整。
- ▶ 住民の環境により見え方が変わるため、複数の職員あてにテスト配信を行いスマホ端末ごとの見え方を検証。

担当者

大阪府藤井寺市
政策企画部 秘書広報課

莊司 彩香

「伝える」だけでなく、きちんと「伝わる」情報配信を、という思いで運用しています。住民の意見をもとに、よりよい形を追求した結果、現在の形にたどり着きました。今後も、誰もが使いやすいツールであることを重視し、日々進化し続けるアカウントになるよう、庁内関係課と共に検討を重ねていきたいと思っています。



回答数は50倍以上。LINEで市民アンケート

自治体 | 東京都狛江市

アカウント名 | 狛江市
LINE ID | @komacacity



1 取り組み概要

- ▶ 狛江市LINEアカウントより、友だち登録者全員に対して、広報紙に関するアンケートを実施。期間は2021年12月～2022年1月。
- ▶ 狛江市LINEアカウントは、人口約8万人に対し、友だち登録者数は5万人以上と、住民の6割相当が登録。
- ▶ 友だち登録者に対する情報配信の他、道路公園等の通報、問い合わせ、イベント情報などの機能を実装。

2 特徴

- ▶ 狛江市LINEアカウント上で回答が完結できる形でアンケートを実施。

3 工夫

- ▶ 質問は最大10問と短時間で回答できるように設計。
- ▶ アンケート配信する際のメッセージにはフレックスメッセージを用い、視覚的に回答を訴求。
- ▶ ブロック回避のため、プッシュ通知による情報配信は回数を絞って実施。

4 苦労と解決策

- ▶ 前年度までは紙とWebでの回答方式で実施。回答数が50件程度、30代以下の若年層の回答が少なく、20代に関しては0件と意見の吸い上げが十分でなかった。さらに、紙での回答については、担当職員による手入力でのデータ化で時間を要していた。
- ▶ LINEからアンケート実施したことで、全体の回答数は50倍以上となり、30代以下の回答も得られた(30代334人、20代133人、10代26人)。回答がすぐにシステムに反映されるため、データの手入力は0に。
- ▶ 幅広い層、多くのアンケート回答を得たことで、住民のニーズをより詳細に把握。住民の声を受けて、イベント情報配信やごみ分別案内機能などを追加した。

結果

- 前年度Web/紙で実施した際の回答数は約50件に対し、LINEでの実施では2,900件超回答。

住民の声

- 「LINEでの実施でない場合、市のアンケートに回答する機会はなかったと思う」とアンケート手段をLINEにしたことへ高評価。
- 「LINEで市と繋がっている気がした」、「市の情報を手軽に知ることができるようになってありがたかった」とLINEが市と住民の重要な接点となっていることも伺えた。

担当者

東京都狛江市
企画財政部 秘書広報室 広報広聴担当

宮本 和志

LINEを利用してアンケートを実施することで、こんなにも多くの方から回答していただけるのかと驚きました。それだけLINEは誰にでも馴染み深いツールなのだと思います。今後も市民の皆様が市を身近に感じられるツールとして、サービスを拡充していきたいと考えています。



他自治体参考画面





申請数はWebフォームの4倍。 LINEで水道・ガスの開閉栓申請

自治体 | 滋賀県大津市

アカウント名 | 大津市
LINE ID | @otsu_city



1 取り組み概要

- ▶ 大津市LINE公式アカウント上から、水道・ガスの使用開始・休止の申請が可能。
- ▶ リッチメニュー「申請・手続き」から「水道/ガス手続き」を選択し、申請種別、ガス・水道等の対象サービス、開栓希望日等申請に必要な情報をLINE上で回答することで申請完了。

2 特徴

- ▶ お客様センターの受付時間外でも、いつでもどこからでも申請が可能。
- ▶ 電話での申請よりも、手続きにかかる時間を短縮。一問一答のトーク方式で申請内容に答えるだけなので簡単。
- ▶ 申請内容が双方で確認できるので、電話での聞き間違いなどを解消。

3 工夫

- ▶ LINEでの手続きを推奨するため、開栓時に栓にかけるチラシに開栓手続きのQRコードをお知らせ。
- ▶ ホームページのトップページに出ている開栓手続きの電話番号を削除し、LINEで手続きできるよう誘導。
- ▶ 新たに引っ越しにより開栓される人がスムーズに手続きできるよう、賃貸管理会社のチラシにLINE開栓手続きを掲載。
- ▶ 項目数に圧倒され、任意項目であふれていた電子申請ではなく、聞かれたことだけに答えるLINEのトーク方式で住民の心理的負担を削減。
- ▶ 使用者と申請者が同様である場合、質問を表示させないことで最短項目数での手続きが可能。

結果

- 3.9%だったオンライン申請が**12.2%**まで向上。わかりづらいWebフォームではなく、直感的な操作ができるLINE申請だからこそ。

住民の声

- 「LINEでの手続きは非常やりやすかった。これからもどんどん広げていってほしい」、「とても簡単で便利。住民目線の素晴らしいサービスだ」、「市役所サービスでこれは画期的で感動した。このようなサービスを拡大してほしい。役所手続きのために平日休みを取らなくてもできるのは大変助かるし、市役所業務の生産性改善にもなると思う」など、便利で簡単ということで、高評価。

4 苦労と解決策

- ▶ LINE申請の公開まで約1カ月半しかなかったが、トーク方式のため設定が想像していたより簡単であった。
- ▶ 開閉栓担当者に手続きを確認しながら、できるだけ簡単に分かりやすく入力できるように設定。様々なパターンで入力テストを実施したが、本番運用を開始してみると意図しない入力をされるお客様もあられ、その都度、改修して対応。
- ▶ 手続き完了後にアンケートを実施し、利用に関してのお客様の感想や改善点など参考に対応可能な要望については、改善を行った。
- ▶ LINE上に個人情報を残さないように、申請者の氏名等の情報は専用フォームで入力できるように設定の改修を行った。



担当者

滋賀県大津市
企業局料金収納課

西村 博之

行政への手続きで開庁時間を気にせずに申請できるのは画期的であり、運用する側としても申請を受けてから確実に事務処理が行えるため手戻りが少ないことが事務の改善に繋がっていると感じています。今後はこの機能を他の業務にも活かせるように新たな事業展開を検討していきたいです。



自治体 | 宮崎県串間市

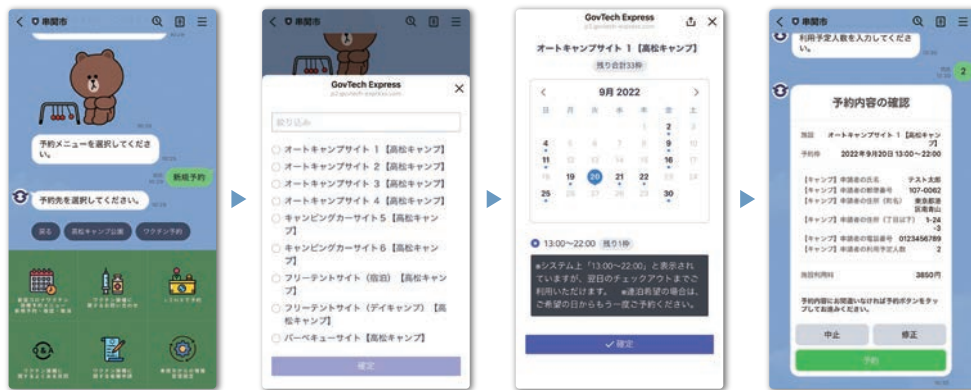
アカウント名 | 串間市
LINE ID | @kushima.city



9割が利用。LINEでキャンプ場予約

1 取り組み概要

- ▶ 串間市LINE公式アカウントを活用し、2021年4月オープンした高松キャンプ公園の予約をLINEから受付。
- ▶ リッチメニュー「LINEで予約」を押すとチャットボットが案内を開始。「新規予約」、次に「高松キャンプ公園」、日時等選択し予約完了。慣れてくると1分で完了。



2 特徴

- ▶ 利用日の90日前から予約可能。受付は24時間。空き状況もリアルタイムに確認できる。
- ▶ 利用日の前に予約確認メッセージを送信。
- ▶ 利用者に対して、アンケート調査を検討。キャンプ場の満足度以外にも、観光の動向なども把握し市全体の観光促進に繋げる方針。

3 工夫

- ▶ 庁内の別部署で活用されている「GovTech Express」に着目。導入の追加費用なく、キャンプ場の予約をLINE上でできる仕組みを構築。
- ▶ 利用者は、スマホを使って24時間いつでも簡単に予約を済ませられるようになり、職員は電話対応の負担から解放。

4 苦勞と解決策

- ▶ 開設当初は予約受付方法は電話のみで開始。予算が無い中で使えるシステムとして宮崎県の電子申請システムを活用しWeb受付も開始。
- ▶ ただし、利用者が一方的に予約したい日時を入力するもので、確認、その後のやりとりが必要で、業務改善には繋がらなかった。
- ▶ 電話対応だとヒアリング項目も多く一人10分程度時間がかかっていた。多い時だと何十件と問い合わせが入り予約処理に時間と労力を割っていた。
- ▶ デジタル担当部署が導入済みだったGovTech Expressに課題解決できる機能があったため追加費用なく実装。

結果

- 全体の**9割**がLINE経由で予約
(2022年4月～8月、電話含む予約件数 2,100件)
- 1件最長10分間の対応を1日数十件行っていた電話対応は実質**0分**へ。

住民の声

- 「予約やキャンセルを時間を気にせずいつでもできて便利だ」と利用者の満足度は高い。

担当者

宮崎県串間市
商工観光スポーツランド推進課

内田 葵

利用者・行政の双方が簡単に使える予約システムを構築できたと思います。行政の他の分野でも面白い使い方ができそうなので、取組が広がることを期待しています。



1分で完了。LINEで市内の改善要望

自治体 | 神奈川県座間市

アカウント名 | 座間市
LINE ID | @zama_city



1 取り組み概要

- ▶ 座間市LINE公式アカウントから、スマートフォンのカメラ機能及び位置情報機能を用いて、市内の道路の損傷、ゴミの不法投棄や落書きなどの通報が可能に。
- ▶ リッチメニュー「通報」を選択すると、通報したい対象物の種類が表示される。適切なものを選択し、写真や位置情報、日時などの情報を入力し通報完了。

2 特徴

- ▶ 道路、公園、スポーツ施設、ポイ捨てゴミ、不法投棄など、通報対象物の項目を細かく案内するなど、住民は迷うことなく直感的に操作できる。
- ▶ 従来、電話か通報専用のアプリケーションから通報を受けていたが、LINEによる通報機能を導入したことで24時間365日使い慣れたアプリから通報が可能に。

3 工夫

- ▶ GovTech Expressのアンケート機能とフレックスメッセージを活用することで、視覚的に分かりやすいサービスを実現。注意事項等の案内も適切に盛り込むことで、住民からの操作方法についての問い合わせはほぼゼロに。
- ▶ 「町を良くしたい」という住民の思いと共に届く多種多様な通報をスピーディーに解決するため、関係する多くの部署に対し機能導入に向けた説明会を実施。職員で当該機能のプロトタイプを作成し、利用者側の操作や職員側の手続きを見せながら説明することでイメージが持ちやすく、短期間で運用開始に繋がった。

結果

- LINE通報の件数は2021年で**220件**。
- LINE通報の導入前(別アプリ)は、年間で86件。数年運用してきたアプリでも、認知や操作方法など住民に慣れ親しんでもらうことが難しかった。LINEは日常使いのアプリであり、その親しみやすさ・操作のしやすさが件数の増加に繋がった。

住民の声

- 通報が身近になり、座間市に在住・在勤、その他お買い物等で市を訪れる方が、市町をよくする機会が増えるなど、満足度は高い。

担当者

神奈川県座間市
情報システム課 デジタル推進係

稲毛 亮哉

「住む周囲の環境を改善したい」、「町を良くしていきたい」、ということは誰もが思うことです。従来の手段では、この気持ちに的確に沿うことが難しかったのですが、操作のしやすいLINEの通報機能の導入で多くの改善要望を伺うことが可能となりました。デジタル化の恩恵を皆様が受けられるよう、直感的で利用がしやすく、機能が豊かなものを作っていきます。



4 苦労と解決策

- ▶ 電話での通報の場合、ヒアリングに時間を要していた。さらに、通報後は現場まで状況確認に行く必要があり、1件の通報対応に多大な負担が掛かることも。道路管轄部署に対し通報が入ることが多く、管轄外の通報は、担当部署に情報連携するなど職員の負担が大きかった。
- ▶ 通報の段階で、通報対象物の種類を住民に選択してもらうことで、適切な管轄部署に情報が届くように。さらに、画像・位置情報付きの通報により、状況が明確なため、緊急度や優先度付などが即座に行え、通報後の対処がスムーズに。職員側の労力を増やさないことも意識。



3分で完了。LINEで粗大ごみ収集申し込み・決済

自治体 | 神奈川県横須賀市

アカウント名 | 横須賀市

LINE ID | @yokosuka_official



1 取り組み概要

- ▶ 横須賀市LINE公式アカウント上から、粗大ごみ収集の申し込み・決済まで完結できる機能を、2021年10月に公開。
- ▶ リッチメニューの「ごみ」→「粗大ごみの収集申込み」を選択し、品目や、数量、住所、収集希望日などの質問に回答し申請。所要時間は約3分。
- ▶ 市側で申込内容を確認したのち、住民はLINE Payやクレジットカードによる決済手続きを行い、収集日に粗大ごみにメモ(申請番号・品名・個数)を貼り申請場所に出すことで完了。

2 特徴

- ▶ 24時間365日、開庁時間を気にすることなく、申し込み可能。
- ▶ 電話やインターネット受付では後納のみとなるが、LINEによる申し込みは前納となるため支払いがスムーズ。

3 工夫

- ▶ ごみの搬出忘れを軽減させるため、収集日の前日にリマインダーメッセージ送信。
- ▶ 市HPの粗大ごみに関するページでLINE受付について明記。公開時には市政だよりを活用し、住民へ周知。

結果

- 全体の2割強がLINEによる申請。
- 前納となったことで、納入通知書の送付や納入確認など不要となり、事務手続きが軽減。

住民の声

- 「自分の都合の良い時間に申し込めるので良い」など利用者の満足度は高い。

4 苦労と解決策

- ▶ 従来、申請内容に不備や確認がある場合、その手続きがオンラインで行われたとしても、電話などの手段で連絡を取っていたが、LINE申請であれば、申請者への確認も全てLINEで完結でき、回答率も高く、業務効率化につながった。
- ▶ 導入に向け、詳細の検討段階から原課を交えた運用イメージのすり合わせをし、運用開始までに細部に渡ったブラッシュアップが行えた結果、スムーズに本番稼働を迎えることができた。



担当者

神奈川県横須賀市
経営企画部 デジタル・ガバメント推進室 主査

青木 伸広

本市では、利用者中心の行政サービスの実現と新たなイノベーションを創発できる地域の実現に向けてデジタル・ガバメントを推進しています。利用者にとって必要とする行政サービスが、時間や場所等の条件を問わず、最適な形で受けられるように、多様な属性をもつ、全ての利用者が利便性を享受できる行政サービスの実現を目指します。





7割がLINE経由。マイナンバーカードの受取予約

自治体 | 広島県福山市

アカウント名 | 福山市
LINE ID | @fukuyamacity



1 取り組み概要

- ▶ 福山市LINE公式アカウントを活用し、マイナンバーカードの受取予約、公的個人認証サービスと連携した申請や手続きなどの機能を公開。
- ▶ リッチメニュー「予約」からマイナンバーカード窓口予約や公共施設の予約が可能。窓口予約はこれまで電話だと約10分かかっていたものが実質0分。

2 特徴

- ▶ 24時間365日、開庁時間を気にすることなく、住民の都合が良い時に予約が可能。
- ▶ 本庁市民課のほか、4支所での予約に対応。職員の配置など受取場所によって異なる窓口状況に合わせた予約枠を設定。
- ▶ マイナンバーカードの受取予約だけでなく、電子証明書の更新の予約も可能。

3 工夫

- ▶ 電話予約の際にヒアリングしていた内容と同じ流れをLINE上に構築。職員と会話するように予約を行うことができる。
- ▶ 操作に必要な情報を画像付きで分かりやすく案内することで、問い合わせも少ない。

結果

- マイナンバーカード受取予約の**7割**がLINE経由。
- 受取予約の電話対応約**10分**が実質**0分**。
- 申請や手続きは**5割**が開庁時間外。

住民の声

- 「スムーズだった」、「自分の都合の良い時にできるので良い」など利用者の満足度は高い。

担当者

広島県福山市
ICT推進課 ICT企画担当次長

松岡 基司

LINEは職員にとって馴染みがあるSNSなので、「LINEでこんなことも実現できそうだね」と、DXに関するアイデアが生まれるようになってきました。これからも、市民に利便さを実感してもらえるサービスを提供していきます。



4 苦勞と解決策

- ▶ スムーズなシステム導入に向け、ICT推進課のみで準備するのではなく、早い段階で原課とBot Expressの担当者も交え機能について議論をする。本質的な課題、構築プロセスを原課も体験することでシステムに対する当事者意識がより強く醸成される。
- ▶ LINE公式アカウントについて住民が認知し利便性を感じてもらえるように、窓口予約以外にも、証明書の交付申請、簡易なフレイルチェックなどの機能も実装。登録数は順調に増加している。



満足度98% マイナンバーカードとLINEで完結するオンライン申請

自治体 | 富山県魚津市

アカウント名 | 魚津市
LINE ID | @uozucity



1 取り組み概要

- ▶ 魚津市LINE公式アカウントから、住民票の写し、印鑑登録証明書、戸籍の附票の写し、独身証明書、身分証明書、税証明、転出届の受付が可能。
- ▶ コロナワクチン接種予約や居住地区別のごみ収集日の通知、各種行政手続など生活に便利な機能をLINE公式アカウント上に構築。
- ▶ 2021年12月開始。LINEをプラットフォームにしたマイナンバーカードによるオンライン行政手続は全国初。

2 特徴

- ▶ 本人確認はマイナンバーカードに格納された電子証明書を利用して行い、交付手数料の支払いは、クレジットカードまたはLINE Payを利用してオンライン決済できるため、24時間どこからでも手続きが可能。
- ▶ 証明書は、現在の住民登録地の住所に郵送。申請から2~5営業日程度でお届け。オンライン申請を試しやすいように、2023年3月末まで証明書の交付に係る郵送料を無料化。

3 工夫

- ▶ 申請件数が多く、かつ、手数料が発生する手続きを優先的に電子化。
- ▶ 誰が見ても迷わないUI・UXであること、老若男女使い慣れたLINEを活用することで、説明書不要ですぐ使えることを意識。
- ▶ 毎月「初心者・高齢者向けスマホ教室」を開催し、魚津市LINE公式アカウントの機能など説明。
- ▶ 市庁舎内にポスターを大々的に掲示。来庁者に対しスマホでも手続きができることを訴求。

結果

- 満足度は**98%**
- 申請件数は2022年1月から2022年8月までで**129件**、利用年齢層は10代から70代まで(最高年齢は75歳)幅広い

住民の声

- 「郵送だと時間もコストもかかるが、LINEだとスムーズ」「平日仕事を休まなくていい」「戸籍に関する証明について、本籍地は魚津市だが別の場所に住んでいるので、LINEで申請できるのは嬉しい。手軽で便利である」など、様々なニーズに応えられており満足度が高い。

4 苦労と解決策

- ▶ 「住民の利便性に資する取り組みとしてやりたい」と担当課に熱意を伝え、さらに市のDX政策を推進する会議において提案を行い承認。DX政策について協議する組織があったことでスムーズな進行に繋がった。
- ▶ 全国初の取り組みのため先事例がなく、LINEのフローなどサンプルがなく迷ったが、担当課と密に相談しながら構築。
- ▶ 満足度や使ってみての感想などのヒアリングのために住民に対しアンケートを実施。その結果をもとに機能をアップデート。



担当者

富山県魚津市
情報広報課 情報政策係

下野 洋平

全国初の事例ということで、手探りで取り組みを進める必要がありましたが、Bot Express様のサポートを受けながら、なんとか実装することができました。実装前から、住民の利便性向上に資する取り組みであることは確信していましたが、実際に申請が来た時やアンケート結果を見た時に、本当に頑張ってよかったと思いました。





ほぼ100%の利用率。LINEによる一時保育予約

自治体 | 三重県伊勢市

アカウント名 | 伊勢市
LINE ID | @isecity



1 取り組み概要

- ▶ 伊勢市LINE公式アカウント上に、保育施設の一時保育申し込み機能を実装。他、幼稚園への欠席連絡機能、水道の開閉栓の手続き、なども公開。
- ▶ リッチメニュー「子育て」から「一時保育予約」を選択し、氏名や住所、連絡先、利用したい施設や日時を選択し、申し込みを行う。
- ▶ 2019年11月公開、自治体としては全国初の取り組み。

2 特徴

- ▶ タイムリーな空き状況をカレンダーから確認でき、予約は複数日をまとめて申請できる。
- ▶ 従来は施設に向いての申し込みだったため、住民は行列に並んだり、駐車場で1時間以上待つ必要があったが、24時間好きな場所から申し込みが可能に。
- ▶ 職員は、行列ができてしまうため早朝に来て対応しないといけなかったが、行列が解消されたので早朝対応が不要に。

3 工夫

- ▶ 保健師・助産師による赤ちゃん訪問の際に、案内をしている。
- ▶ 受信設定の項目に「一時保育利用」カテゴリーを追加。一時保育の予約開始日について登録者にメッセージでお知らせ。
- ▶ 一時保育の面談時に、予約がLINEからできるだけでなく、伊勢市からの様々な情報を得られることを周知し、特に子育てに関する情報が受信できるように設定してもらい利用してもらうようにしている。



4 苦勞と解決策

- ▶ 導入検討時は、新しい取り組みについての反対意見があった。そのような状況の中、Bot Expressからイメージのデモをしてもらい、担当者全員が集まり何度も勉強会をした。実際の挙動のイメージを見ながら、全員で理解をしていくことで導入までつながった。紙や口頭だけでは導入できなかった。
- ▶ 導入後もわからないことがあれば、Bot Expressの担当者が親切にサポートしてくれ、安心して進めることができた。
- ▶ 担当の職員が不在でも運用できるように、一時保育LINE予約登録・対応マニュアルを作製して不安を解消した。

結果

- 申込はほぼ100% LINE経由。
- 保育園の前で並んでいた保護者の列はゼロに。コロナで密な状況避けなくては行けないので、結果導入し本当に良かった。

住民の声

- 「以前よりも予約がしやすくなった」「便利だ」「カレンダーで空き状況が見えるのが良い」「キャンセル待ちの申し込みができるので助かっている」など高評価。
- 「予約の開始日を教えてほしい」など住民からの機能改善についての意見を受けて適時改修するなど、住民と一緒に構築しているサービスになっている。

担当者

三重県伊勢市
デジタル政策課 スマートシティ推進係

小海途 悠真

伊勢市公式LINEの中では、とても多くの方にご利用いただいているコンテンツです。一時保育予約のように、住民の暮らしが便利になるものを第一に考えながら、現場の職員にも「デジタル政策課に相談してよかった」と言ってもらえるようなサービスを今後も作り上げていきたいです。





利用した保護者の8割以上が満足。LINEで保活

自治体 | 東京都練馬区

アカウント名 | 練馬区
LINE ID | @nerimacity



1 取り組み概要

- ▶ 練馬区LINE公式アカウント上に「保活支援サービス」を実装。忙しい共働き世帯が、時間や場所にとらわれずスマホで保活できる環境を提供。
- ▶ 従来、複数の冊子やホームページを見ながら、希望条件に合う保育園を自分で地図に落とし込んでいた作業が不要に。
- ▶ 2020年10月公開。全国初の取り組み。(保育指数シミュレーションは2021年10月公開)

2 特徴

- ▶ 「保活支援サービス」として以下の4つの機能を提供。
 - ① 保育園検索(通園距離、年齢、アレルギー対応、保育指数などの条件を指定して保育園を地図上に表示)
 - ② 保育指数シミュレーション(家庭や児童に関する質問にトークで回答すると保育指数を15分程度で試算)
 - ③ AIチャットボットが保育に関する質問に24時間自動応答
 - ④ 子育て情報の配信
- ▶ 自宅から最寄り駅の間にある保育園は、どの程度の指数があれば入園可能か、パートや時短でも大丈夫か。勤務時間などの条件を変えながら、保育指数を何度でも試算。過去のボーダーラインと比較し目安を持った保活が可能に。

結果

- 保育指数シミュレーションは導入初日だけで延べ1,200人以上が利用。
- 繁忙期の窓口来庁者数が導入前比30%減少。(郵送申請の促進、窓口のWEB予約導入、手続案内動画の公開等の取り組み効果を含む。)
- 利用者アンケートの結果、8割から9割が好意的評価

3 工夫

- ▶ 自治体の冊子やホームページの情報を自分で集約して、希望条件に合った保育園を地図上にプロットする作業は、地味で労力がある。宿泊施設検索サイトのように条件を指定して検索できるようにしたい!という思いから保育園検索の機能を提供。
- ▶ 申込みをする保育園をどうやって探すのか、と窓口で聞かれると、地図を広げ、指数や過去のボーダーラインの資料を並べ…長時間かかってしまう。でもコロナ禍で窓口の混雑は避けたい。そこで、窓口に行かなくても子どものお昼寝や通勤途中に手軽に保活(情報収集)できる環境を提供。

住民の声

- 「保育指数が簡単に計算でき、窓口で相談せずに申込みができた。特に距離を条件に絞り込めるのは便利」と機能への評価も高い。
- 「通勤途中に保育指数の計算や保育園の検索ができて便利だった」「入園申込みの締切前にリマインドの配信があって助かった」と忙しい子育て世帯へのサポートに繋がっている。

4 苦勞と解決策

- ▶ LINEアカウントの開設に消極的な意見が庁内にあり、調整に苦勞。LINEと子育て世代との親和性を訴求し、スモールスタートで開設。
- ▶ 保育園によって様々ある年齢や定員区分、指数の複雑な算定基準など、システム化を前提していない仕組みの実装に苦勞した。Bot Express社のエンジニアと何度も議論を重ね解決した。
- ▶ 2020年はコロナ禍で窓口の混雑対策が喫緊の課題だった。保育園検索機能の開発委託契約からリリースまでわずか50日間。異例の爆速で駆け抜けられた秘訣は、Bot Express社が得意とするプロトタイプング方式の開発。要件定義書の作成など一切なし。これからの自治体に求められるスピード感。刺激的な経験だった。

保育指数シミュレーション



保育施設検索



担当者

東京都練馬区
保育課 保育企画担当係長

関森 隆行

LINEは子育て世代の利用率が特に高く、日ごろから慣れ親しんだアプリであることから、使い方について問合せを受けたことはありません。GovTech Expressは、導入自治体の英知を結集し、どんどん進化していくところが楽しいですね。住民が行政にもっと簡単にアクセスできる世界へ、アップデートしていきたいです。





保護者8割が利用。LINEで学校の欠席連絡

自治体 | 沖縄県与那原町

アカウント名 | 与那原町
LINE ID | @yonabarutow



1 取り組み概要

- ▶ 与那原町LINE公式アカウントを活用し、小中学校へ欠席や早退遅刻の連絡ができる機能を公開。文書の配布や校内の様子を撮影した写真を学校から保護者に送信するなど、保護者と学校の重要なコミュニケーション手段に。
- ▶ リッチメニュー「子育て」から「欠席連絡」を選択し、その後もチャットボットから聞かれる質問に回答したら完了。所要時間は約30秒。

2 特徴

- ▶ 保護者は学校の開いている時間にかかわらず24時間365日連絡が可能で、かつ所要時間は約30秒。
- ▶ 学校側は電話での連絡が減り、教職員の負担軽減に。また、生徒がいつ、欠席・遅刻・早退したのかを簡単に管理することが可能。

3 工夫

- ▶ 入学式等の際に欠席連絡等をLINEで行えることを保護者へ案内するなど、毎年LINEの登録が増え続ける仕組みを構築。
- ▶ 日常的に利用する機能のためブロックを回避することができる。

4 苦勞と解決策

- ▶ LINE活用は、発信内容が複数部署絡むことが多くどの部署が主幹となるのか揉めやすい。それにより導入に至らない自治体は多い。どの部署にも理解できる「LINE運用のステップアップ」資料を作成。ごみ、防災、道路等複数領域の改革につながることも図示し、主幹を自部署とし推進。
- ▶ 「欠席連絡」デモを作成し2ヶ月間の実証実験実施。保護者へアンケート実施したところ、約300人が回答し約99%が満足と回答。満足度利用度の高いサービスになることをPoCで示し、本格導入へ。その後、半年で学校側でシステム運用が自走できる状態となる。

結果

- 保護者の**8割**が利用、利用者満足度**95%**
- 学校側で1時間以上かかっていた作業が**15分**に短縮。
- **500**枚印刷していた配布資料は**24**枚に削減。

住民の声

- 「先生の忙しい時間など気にせず好きな時に連絡できる」、「電話でやりとりしていた労力が軽減された」など高く評価されている。

担当者

沖縄県与那原町
総務課

白井 洋平

私自身も子どもがいる中、日々、電話での欠席連絡に対するストレスから思いついたアイデアでした。私自身デジタルに詳しいわけでもない中、自分自身でここまで構築できたので、今後もスモールサクセスを積み上げていきたいです。





98%が利用し続けたいと回答。 LINEで学校の食物アレルギー・献立情報配信

自治体 | 広島市

アカウント名 | 広島市

LINE ID | @hiroshima_city

1 取り組み概要

- ▶ 広島市LINE公式アカウントを活用し、広島市内にある公立小中学校約200校にて食物アレルギー・献立情報を配信。
- ▶ メニュータブより「学校給食情報」を選択。該当する学校や、受け取りたい情報・通知を受ける時間帯を設定し完了。
- ▶ 同市のアカウントでは、暮らしに役立つ情報の他、道路・公園損傷通報、ごみ分別に関するチャットボット、保育施設検索などの機能も実装。

2 特徴

- ▶ 指定した時間(前日12時、前日17時、当日7時から選択)に献立、アレルギー情報(設定した場合のみ)が通知で届き、スマートフォンで簡単に確認できる。
- ▶ 日付から献立、アレルギー情報を検索すると、他校の献立情報を閲覧することが可能。

3 工夫

- ▶ 市LINE公式アカウントを活用。既存のアプリを使用することで、保護者が利用しやすく、他の情報発信も可能に。
- ▶ 市内の対象児童生徒約9万人にチラシを配付するとともに、毎月配付する家庭配付献立表にLINE IDを掲載し、保護者の認知、登録に繋がった。
- ▶ アレルゲン検索機能や、アラート機能により、個人に合わせたアレルギー情報を確認できるシステムを構築。

結果

- 利用者約2,200人中、約570人が回答したアンケートでは、**98%**が「利用し続けたい」と回答

住民の声

- 「前日にLINEで通知が来るので、代替食を忘れずに持たせられる」、「紙に比べて見逃すことがなくなった」とアレルギーを持つお子さんのご家庭の支援につながっている。
「子どもと給食についての会話が増え、嫌だった食べ物を好きになっていったことに気づいた！」などアレルギー有無に関わらず子どもと保護者とのコミュニケーションの機会にも。

担当者

広島県広島市
教育委員会 学校教育部 健康教育課 課長

村上 早苗

ライフスタイルの多様化により、個々のニーズに応じた行政情報の提供が求められています。こうした中、学校給食での食物アレルギー事故防止を目的に、広島市LINE公式アカウントで食物アレルギー・献立情報の配信を開始しました。アレルゲン検索機能やアラート機能により、保護者の安心につなげたいと思います。



4 苦労と解決策

- ▶ アレルギー対応に当たっては、給食献立表と食材のアレルギー情報をまとめた一覧表を突合・確認する作業が保護者の大きな負担となっていたが、LINEを活用して給食の献立からアレルゲンを検索する機能や、アレルゲンが含まれる献立の通知機能を提供することで、保護者等の安心や確認作業に係る負担軽減に繋がった。



来庁も紙も不要。2分で完了、LINEで助成金申請

自治体 | 東京都渋谷区

アカウント名 | 渋谷区
LINE ID | @shibuyacity



1 取り組み概要

- ▶ 渋谷区LINE公式アカウントから、出産助成金の申請を可能に。本人確認手段として、JPKI(公的個人認証サービス)とeKYC(AI顔認証)を活用。
- ▶ 2016年、全国の自治体で初めてLINE公式アカウントを開発。以降、AIチャットbot、位置情報の施設案内、LINEによる予約受付など断続的に拡充。2020年4月から住民票や税証明のオンライン申請を開始し、約30の手続きが可能。



2 特徴

- ▶ Push型。受信設定で妊娠中だと回答した住民に対し、出産後に助成金の案内をメッセージでお知らせ。住民は受け取ったメッセージからそのまま申請可能。
- ▶ 来庁、紙不要。手続きのために区役所へ行く、もしくは申請書を印刷して郵送する必要なし。使い慣れたLINEで申請。
- ▶ 銀行口座不要。セブン銀行ATMで銀行口座を介さず現金受取可能。銀行口座を持つことが難しい方にも助成金を届け

3 工夫

- ▶ 1問1答で友だちとLINEで会話するように回答していくことで申請完了。質問は窓口で職員から住民に対して行われるものと同じ流れ。
- ▶ 本人確認や受給方法など選択肢を複数用意し、ほとんどの方が、今すぐ、手元にあるもので、簡単に申請できる仕組みを構築。

4 苦労と解決策

- ▶ 銀行口座に振り込む場合は、その情報を入力しなければならないが、書き間違いがあるだけで、住民に問い合わせを行うなどの作業が発生する。日本全国の多くの方が使っているソリューションであるLINEを使って、出来るだけ住民の申請ミスを最小化。

結果

- 受付開始以降、ハッピーマザーの全申請中、約2割強の方がLINEによる申請を活用
- 利用者アンケートでは98%が好意的な評価

住民の声

- 「自分の都合の良い時に携帯だけで申請ができるのがよい」、「子供が生まれたばかりなので区役所に行ったりする手間がなく、助かりました」、「手続きが面倒そうだと思って、後回しにしておりましたが、こんなに便利な手続きのやり方があるなんてびっくりしました」と高評価。

担当者

東京都渋谷区
デジタルサービス部 デジタルサービス推進担当課長

宝田 英之

ハッピーマザー出産助成金の申請は、外出不要でかんたんにLINEで申請できることで、多くの利用者の方からご好評をいただいています。「こうしたらもっと便利」というフィードバックもいただいていますので、今後も利用者に寄り添った一層便利で使いやすいサービスを提供していきたいと考えています。





65歳以上の7割、住民全体で8割以上利用。 LINEでワクチン接種予約

自治体 | 東京都目黒区

アカウント名 | 目黒区
LINE ID | @meguro_city



1 取り組み概要

- ▶ 目黒区LINE公式アカウントを活用し、2021年4月より新型コロナウイルスワクチンの接種予約受付を開始。パソコンよりスマホを使う高齢者が多いと想定し、LINEと電話での予約に限定し実施。
- ▶ 他、基本計画や実施計画への意見募集、ごみ分別案内、イベントや緊急情報（災害・防災情報など）の配信、道路等の損傷報告などが可能。

2 特徴

- ▶ 接種を希望する本人がスマホを持っていない場合でも、家族などのスマホで予約可能。
- ▶ 電話予約はつながらないことが多く、つながった場合でも1件あたり5分かかる。LINEだと1分程度で予約完了。24時間受け付けており、予約の取り消しもいつでも可能。
- ▶ 予約の前日と当日にLINEで予約確認を送信し、接種漏れを防止。

3 工夫

- ▶ LINEでの予約方法を約15段階に分けて図解した臨時の広報誌を作成し、家庭に配布。
- ▶ 区の公式Youtubeチャンネルで操作方法動画を公開。5万回視聴。
- ▶ LINE公式アカウントのメッセージ機能を活用し、追加された会場や接種対象者の拡大などワクチン接種に関する情報を積極的に配信。住民にとって重要な情報収集ツールに。

結果

- 全体の8割以上がLINE経由。65歳以上でみても、7割がLINE経由。
- 23区内、全国自治体の中でも、予約受付開始を早期に実行できた。結果、多くの住民が早い段階で接種を完了することができた。
- ワクチン接種予約受付開始以降に急増したLINEの友だち登録数は2022年9月時点168,000人と人口の6割相当。重要なコミュニケーションインフラに。

住民の声

- 「近隣自治体より早く予約が開始され、接種もスムーズにでき、目黒区民でよかったと思った」、「これまで行政関連でLINEを使った予約をしたことがなかった。自治体でこんなことができるんだと驚いた」など住民満足度は高い。

担当者

東京都目黒区
DX戦略課 新型コロナ予防接種課

田中 和弘

新型コロナウイルスワクチン接種予約の機能について、いつも突然変更となる接種方針や仕様に、柔軟に即時ご対応いただけたことで、スピード感のある接種事業が実現でき、とても助かりました。今後、さらなる機能拡充や、効果的な情報発信を継続していきたいと思っております。



4 苦労と解決策

- ▶ 導入当初、住民から「なぜWebサイトはなく、LINEと電話だけしか予約手段がないのか」という声があった。LINEの有用性や、区と住民とのコミュニケーションツールとしてのLINEの重要性を伝え理解を促した。

GovTech Expressの特徴の一つは「自治体職員自らが開発者になれる」こと。

自由自在なプラットフォームを使いこなす長野県佐久市情報政策課佐々木氏に、導入時のエピソードや工夫、導入結果と今後の展望を聞いた。

9割LINE経由のイベント予約、目標の10倍回答を得た市民アンケート、職員専用機能など、次々とサービスを生み出す秘訣

Q GovTech Express 導入時の所感、サービス実装に向けた庁内調整の工夫

「使い方、無限大！」
GovTech Expressの自由度に衝撃

自由度が高く、データベースやワークフローなど様々な機能が用意されているため、「活用次第で何でもできるのでは？」と思いました。GovTech Express の良さを活かすために、各部署とは「困っていること」や「やってみたいこと」を主にヒアリングをして、システムが前提となった発想にならないように努めています。

職員からの自由な提案や発想により、様々な機能の開発・リリースにつなげてきました。検討・開発・運用までの全てを佐久市情報政策課が行うため、機能開発のたびに料金が発生しないのも魅力の一つです。

Q サービス拡大のために意識しているポイント

サービス拡大のために意識しているポイント
住民・職員、双方の使いやすさにこだわる

市民との接点を強めるために、普段使いする機能（イベント予約や家庭ごみに関する情報、アンケートなど）を充実させるように意識しています。

メッセージには色や画像などを用いて、視認性向上や興味を惹くように工夫しています。また、作業の効率化やミスを防止するため、職員が利用する管理システムは「簡単に操作できるような画面レイアウト・画面遷移」「処理の自動化やシステム制約の設定」「共通作業のテンプレート化」を特に意識して構築しています。

Q 佐久市のスマホ市役所、今後の展望

佐久市のスマホ市役所、今後の展望
スマホの特長を活かした新サービスで、市民と最も近い接触ポイントへ

イベント予約は現在18部署で利用いただき、予約の9割がLINE 経由となっています。毎週配信しているイベント情報との相乗効果もあり、「今までよりも参加者が増えた」という声もいただいています。市民アンケートでは目標の10倍近い回答があったり、バルーンフェスティバルで使用する熱気球のデザインや新しく整備された公園・道路の愛称投票など、市民との重要なコミュニケーションツールになっています。

庁内でも GovTech Express の認知度が上がり、新しいサービスや既存システムからの移行という相談も受けています。（どんな内容でも、まずは「できます！」と回答しています笑）

市民と最も近い接触ポイントになれるように、「各種申込・市からのお知らせ・情報を探すとといった日常的な機能をさらに充実させる」「特性を活かした新サービス（シングルサインオン、JPKI、位置情報、チェックイン等）」「他システムとの連携」を考えています。

自治体	長野県佐久市
アカウント名	佐久市
LINE ID	@sakucity



担当者

長野県佐久市
情報政策課

佐々木 尊史



意識していることは「普段から便利さを感じられる」「ユーザビリティが高いUI/UXを提供する」ということです。GovTech Expressはスピード感のある開発や柔軟な対応が可能のため、市民や職員のニーズへ素早い反応をすることができます。各担当者の柔軟なアイデアを形にしていき、市民・職員どちらも使いやすいツールにしていきたいと思っています。

充実の予約機能

- ▶ 24時間365日LINEでイベント予約。
- ▶ 担当者はイベント情報を1回入力するだけの簡単作業。
- ▶ 満席時には自動でキャンセル待ちが可能。
- ▶ 前日には参加住民に対してリマインダーを自動配信。
- ▶ 「LINE 受付票」を予約者に自動配信。受付時には参加者一覧から探さなくてもLINE画面上での操作で完了。



視覚的なアンケート

- ▶ 住民はLINEで届くメッセージからそのままアンケート回答。アイコンやボタンで直感的に操作
- ▶ テンプレートを作成し職員は短時間でメッセージ作成可能。
- ▶ ユーザ属性と併せた分析も可能。自由回答は、市で開発したAI言語分析ツールで可視化。



職員だけが使える機能も、表には出さずに共有

- ▶ 住民向けのサービス以外にも、職員だけが使える機能も隠れメニューとして実装。
- ▶ 避難所運用等、電話での報告をLINEに代替。
- ▶ 自動でデータを集計して、エクセルやCSVで出力可能。出力したCSVは別システムとシームレスに連携。
- ▶ 担当者に対して報告依頼を自動配信し、報告忘れを防止。



リッチメニュー編

1枚で表示したり、領域ごとにタブで切り替えたり。その町らしさの色やキャラクターを使って、オリジナルのスマホ市役所をつくることができます。

リッチメニューとは？

トーク画面下部(キーボードエリア)に固定で表示されるメニュー機能です。



1枚

POINT

一枚にまとまっているので情報をシンプルに伝えることができる。



POINT

タブで分かれているのでカテゴリごとに多くの情報をみることができる。

タブ切り替え



フレックスメッセージ 編

フレックスメッセージを活用することで、フォントを変えたり、画像をつけたり、行ってほしい行動をボタンで示すなど、伝えたいことをわかりやすく表現することが可能。

フレックスメッセージとは？

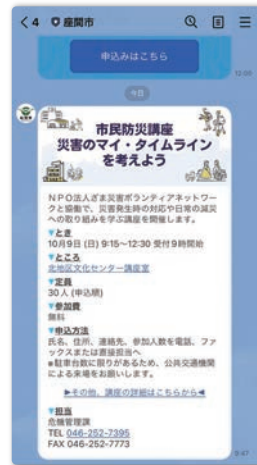
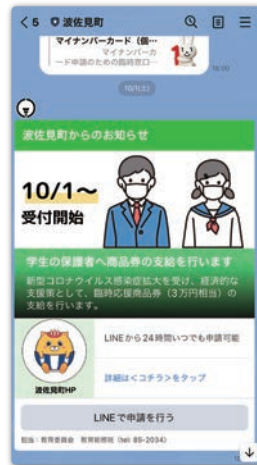
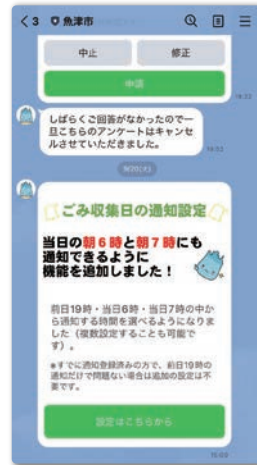
レイアウトを自由にカスタマイズできるメッセージの機能です。



メッセージ配信

POINT

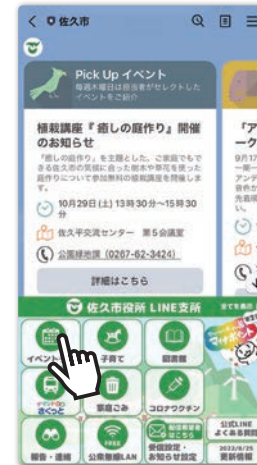
重要な報告からほっこりするお知らせまで、リアルタイムで友だち登録をしている人に届けることができます。



メッセージ配信以外での活用

POINT

GovTech Expressなら、メッセージ配信以外にも、メニュー表示や、申請・予約等の手続き、アンケートにもフレックスメッセージを利用できます。



リッチメニューをタップした後のメニュー表示



アンケートでの設問



Bot Expressについて

Bot Expressの約束

1

事業拡大より、
今、そこにいるパートナーを優先する

私たちはビジネスの拡大よりも住民の行動変容を起こすような有益なサービスの実現に関心があります。1つの驚き、1つの解決、1つの変革が私たちのフォーカスであり、売上成長率よりも共鳴するパートナーとの取り組みを常に優先します。

2

共に取り組む

エンドユーザーは住民の方々。自治体の方々は、共にエンドユーザーにサービスを提供するパートナーだと考えています。私たちは事業者として自治体に向き合うのではなく、自治体のExtension(拡張組織)として、共に取り組みます。同じビジョンに向かって共に取り組む限り、サポートの回数や内容に制限はありません。

3

税金を無駄にしない

住民が公益のために支払った税金、その対価に見合うサービスを提供しなければなりません。価値を評価できるのは住民の方々。私たちのサービスに価値があったかどうか、住民からのフィードバックを積極的に収集し、サービスの妥当性をできる限り公開していきます。

サービス5つの特徴



質問に回答するだけ。
説明書がいないIT

案内に沿って回答していくと手続き完了です。しかも、操作がなんだか楽しい。これが対話型UIの素晴らしいところ。



「はがき」も来庁も不要な
行政手続きを。

町と住民が友だちになっていれば、住民への連絡に「はがき」は要りません。対象者にメッセージを送るだけ。ご案内も、パブリックコメントも。



LINE、Web、電話で
利用できます。

得体の知らないアプリを使う必要はありません。お気に入りのツールをご利用ください。

自治体職員が
開発できます。



実行を来年度まで待つ必要はありません。自ら開発できるプラットフォームがあれば、新規予算も仕様書作成も入札も不要。数週間でサービス化が可能。1度の設定でLINE、Web、電話からサービスを提供できます。

各地のアップデートを
全国でシェア



スーパースター(自治体職員)が開発したサービスをテンプレートとして全国に共有。パブリッシャーとして全国に貢献する職員と、そのテンプレートを使って素早くサービスを実装する自治体。これは「構想」ではなく、今行われている営みです。

会社概要

会社名：株式会社 Bot Express (ボットエクスプレス)
 事業内容：対話型アプリケーション「GovTech Express」(ガブテックエクスプレス)の提供
 設立日：2019年2月1日
 資本金：1億円
 住所：〒107-0062 東京都港区南青山1-24-3 WeWork
 代表者：代表取締役 中嶋 一樹
 公式サイト：https://www.bot-express.com/
 連絡先：hello@bot-express.com

Bot Express LINE公式アカウント



実際の操作感を体験できます。イベント情報や最新事例も配信。



お問い合わせ | ホームページの「お問い合わせ」よりご連絡ください <https://www.bot-express.com/contact/>

つくろう。愛される行政サービスを。

 Bot Express